



3年生最後のコンクールで初の金賞、有終の美飾る

人づくりは音づくりへ

湯前中学校吹奏楽部

日 本音楽教育文化振興会が主催する第24回日本管楽合奏コンテスト予選の審査結果が9月29日に発表され、湯前中学校吹奏楽部(宮原舞華部長)が中学校S部門(15人以下)で優秀賞を獲得。録音審査に数百校が応募する大会で快挙を達成した。

続く10月6日。熊本市の熊本県立劇場で開かれた、第51回RKK熊本県中学校器楽合奏コンクールは現3年生にとって最後のコンクール。中学校B(15人以下)の部で同校7年ぶり、3年間で初めての金賞を受賞し、見事に有終の美を飾った。

演奏したのは「鼓響Ⅱ」和太鼓と吹奏楽のための試み」で顧問の伊豆野浩教諭が製作したもの。故郷とかけ、湯前の自然を表現し、吹奏楽に和太鼓や琴など日本の楽器を合わせた曲。10月6日、部長の宮原さんは「これが最後。今までで一番いい演奏をしたかった」とコンクールに挑んだ。演奏が終わった瞬間、部員たちは充実感と感動で涙を流した。それほど納得できる演奏だった。「それぞれの楽器の役割をしっかりと果たしていた。3年生のソロパートも良く、全体の調和がとれていた」と伊豆野教諭。結果はついてきた。発表の瞬間、全員が喜びと驚きでいっぱいだった。



いつもみんなで助け合い、励まし合ってきた部員たち。今までなかなか結果が出なかったが、努力はみんなを裏切らなかった

和太鼓と吹奏楽を合わせた曲は珍しい。和太鼓の練習だけでなく、和太鼓に合う吹奏楽の音色を出すために指導を受けて、表現力を高めてきた。個人練習でも基礎を欠かさなかった。リズムや吹き方は、同級生同士で確認し合い、先輩は後輩にアドバイス。思いやり、励まし合って力をつけた。学校の来客には立ち止まって、大きな声であいさつ。正しい礼儀が心を成長させ、最後に最高のハーモニーを生んだ。

「人間的な成長が技術を高めた。限られた時間の中でもさらに成長できる人間になってほしい」と伊豆野教諭。3年生の演奏の機会は残すところ人吉球磨内での演奏のみとなった。宮原さんは「金賞や優秀賞をとれた経験を生かして、いい演奏を地域の皆さんに届けたい」と話した。